

Newsletter from KUIS Research Institutes

vol.2
2023.7.15



神田外語大学 言語教育研究所 / 日本研究所 / グローバル・コミュニケーション研究所

KUIS 附属研究所 所長からのごあいさつ

言語教育研究所 Research Institute of Language Studies & Language Education

開学の年に設置された本研究所は、変わりゆく大学と共にその活動内容も変遷を遂げてきました。「言語教育研究所」という日本語名称は、言語教育の研究拠点のように聞こえますし、長い歴史の中には言語教育研究が中心であった時期もありました。一方、英語の Research Institute of Language Studies and Language Education という名称には、母語か外国語かを問わず、人間のことばの本質に関する基礎研究と、ことばの教育などを扱う応用研究の両方を推し進めるという方針が示されています。教育の中核に言語を置く本学において、言語に関する研究は重要な役割を果たします。今後も、言語研究・言語教育研究の成果が様々な教育の質の向上につながっていく環境を目指したいと思えます。



石居 康男 先生
(英米語学科 教授)

日本研究所 The Research Institute for Japanese Studies



町田 明広 先生
(IC 学科 教授)

日本研究所は、世界の人々と対話する上で必要不可欠となる日本の歴史や文化を学び、学生が日本に関する理解を深めることを目指して、1992年に設立されました。日本の文化や社会、歴史、美術、政治などを専門とする本学の日本人・外国人教員の多様性を生かし、各種のテーマを設定して、ユニークな研究や講演会などを行なっています。また、西欧を中心とした海外の日本研究者との連携を深めており、国際学会を本学で開催するなど、この分野でのハブ的存在として活動を展開しています。さらに、神田佐野文庫に所蔵される貴重資料の研究を鋭意継続しており、その成果を広く発信しています。これからも、日本研究の有数な拠点となることを志向します。

グローバル・コミュニケーション研究所 Global Communication Institute

グローバル・コミュニケーション研究所 (Global Communication Institute: 以下 GCI) は、異文化コミュニケーション研究所と国際問題研究所との統合により 2012年に創設されました。こうした設立の経緯からもわかるように、GCIは「グローバル化」と「コミュニケーション」をキーワードとした学際的な研究を奨励します。GCIでは、この学際性を活かした GCI 共同研究プロジェクトや講演会を精力的に行っており、その活動成果は毎年刊行される紀要『グローバル・コミュニケーション研究』で発表されています。GCIは、グローバル化に伴う社会の変容と共に、コミュニケーション分野の重要性を認識した研究に邁進して、今後も学内外にその成果を発信します。



河越 真帆 先生
(GLA 学科 准教授)

2023 年度前期 イベント報告

第 70 回 GCI 講演会「今、考えよう、SDGs! 児童養護施設出身者が感じる『ゴール 4 質の高い教育をみんなに』」を開催 (6月6日、GC 研)



講師の田中れいか氏

児童養護施設出身で、子どもの進学支援などに取り組む一般社団法人「ゆめさぼ」代表理事の田中れいか氏を迎え、児童養護施設での生い立ちや、施設の子どもの進学状況について、ご講演いただきました。詳しい講演会報告は GC 研ウェブページにて公開中 (→)。



国際学会「Asian Philosophical Texts」を開催 (7月1～2日、日本研)

秋田大学、エジンバラ大学と共催した国際学会が本学で開催され、各国から対面、オンラインで研究者が集まり、アジアを中心とする哲学やそのヨーロッパ諸語への翻訳について、研究成果を報告しました。



7/1 (土):
5 報告 (参加者 12 名)
7/2 (日):
4 報告 (参加者 7 名)

紀要

2022年度研究所紀要を刊行しました

各研究所紀要は KUIS 学術情報リポジトリ「asKUIS」(https://kuis.repo.nii.ac.jp/) から閲覧可能です。各紀要の最新版は下記各 QR コードからご覧いただけます。

『言語教育研究』第33号

【研究論文】

- Exploring Language Use and Identity of Heritage Language Speakers: A Case Study of Second-Generation Adolescent Immigrants in Japan (Megumi Sugita)
- 日中2大学の学生による絵本翻訳・読み聞かせプロジェクト—オンライン国際協働学習 (COIL) を通じて学生は何を学んだか— (植村 麻紀子)
- コロナ禍において日本で研究を続ける留学生の経験の語り—日本人の知人との会話に着目して— (釜田 友里江)

【実践報告】

- 会話の瞬発力養成を目指す初級中国語会話授業の実践報告 旨在培养即时会话能力的初级汉语会话课的课程实践报告 (陳力)
- 言語教育における学習記録の活用—教育的効果及び指導上の課題 (片瀬 紅実子)
- 言語教育研究所 2022年度開催イベント一覧



『日本研究所紀要』第15号

【論文】

- 慶応期後半の中央政局と薩摩藩—幕薩・薩長融和と薩英交渉を中心に (町田 明広)
- The Portrait of a Forgotten Meiji-Period Japanologist: Captain Francis Brinkley (1841-1912) (Alexandra MUSTĂŢEA)
- フランシス・プリンクリーとボストン美術館日本陶磁コレクション (福永 愛)
- 初代駐仏公使鮫島尚信の右大臣岩倉具視宛書簡について (下) (松田 清)
- 『日本広東学習新語書』及び『明治三十八年 戸口調査用語 (広東語)』所収の符号仮名 (5) (山村 敏江)
- 『日本広東学習新語書』の人称代詞複数形と訓読について (矢放 昭文)
- 会話の中でみられる愚痴の継続と終え方—聞き手の共感の仕方に着目して (釜田 友里江)
- 日本の海外移住政策：対ラテンアメリカ移住政策の変遷と日系社会の形成 (柳沼 孝一郎)

【講演要旨】

- 日本の近代化を目にした西洋人知識人にとって「日本伝統文化」の意味するもの—フランシス・プリンクリーの武士道と日本陶磁研究 (ムスタツェア・アレクサンドラ/櫻庭 美咲)

【日本研究所 活動報告】

- 神田外語大学 国際日本文化研究センター 京都府立京都学・歴史館共催企画展「明石博高—京都近代化の先駆者—」の開催 (松田 清)
- Asian Philosophical Texts (4) 開催報告 (ムスタツェア・アレクサンドラ)
- 日本研究所活動報告一覧



『グローバル・コミュニケーション研究』第12号

【特集】グローバル化する中国と世界—学際的研究

- 特集にあたって (高杉 忠明)
- 中国「偵察気球」事件とは、何だったのか? (興梠 一郎)
- 欧州の交通インフラをめぐるEUと中国の協調と対立 (河越 真帆)
- ラテンアメリカと中国における歴史的・経済的関係—ペルー・中国関係を中心に (磯田 沙織)
- 出稼ぎ商人からインフラ建設パートナーへ—セルビアにみる対中関係の30年とその変容 (鈴木 健太)
- Acculturation of Skilled Migrants from China Working in Japan: Antecedents and Styles (YE-YUZAWA Youqi)

【研究論文】

- 人工中絶論争の政治化—ブラジルにおける女性の権利運動をめぐる対立 (奥田 若菜)
- コロナ禍のオーストラリアにおける園芸農業部門での労働力不足への対処策—太平洋諸島からの外国人労働者受け入れ制度の考察 (小野塚 和人)
- 「人間になる」とは—シャロン・ドドゥア・オトゥ『アダの部屋』における女性と人種 (小野 二葉)
- Effects of Refusal Instruction on English Pragmatic Development (KOMIYA Chihiro)
- 対話型アート作品鑑賞手法による大学生の対人コミュニケーション力育成 (宗像 花草)
- グローバル・コミュニケーション研究所活動概要



神田外語大学附属図書館 神田佐野文庫常設展示 2023 前期

監修：松田 清 先生 (日本研究所 客員教授)

あんげりあ

「諸厄利亞語、エゲレス語、エンケレセ—「英語」になるまで—」を3号館1階展示エリアにて開催中

展示の複製資料

- 『諸厄利亞語学小笈』1811年、『諸厄利亞語林大成』1814年
- 『和英語林集成』J.C. ベボン編訳 1867年
- 『英米対話捷徑』中浜万次郎著 1859年
- 『大しんばん英国廿六文字絵直』、『英字訓蒙図解』1871年
- 『童蒙必見和漢洋伊呂波帖』1873年、『西洋文字稚絵解』
- 『英語図解』1887年、『絵本百面相』1891年



江戸時代の寺子屋では、仮名文字を教えるのに、「あいうえお」50音ではなく「いろは(伊呂波)」48文字から始めた。「いろは」文字のお手本は、和紙を蛇腹のように押し重ね、表紙を付けた「折本(おりほん)」だった。

お問い合わせ：神田外語大学 附属研究所 (言語教育研究所、日本研究所、グローバル・コミュニケーション研究所)